

名古屋の

古地図の見方と楽しみ方

古地図といっても時代によって違います。江戸時代の名古屋城下碁盤割界隈の地図を見ると、こんな所に武士が住んでいたのか?とか、こんなところに商人街があったのか?とか、じっくり見てみると発見が色々あります。明治時代の名古屋の地図には、豊田とかノリタケとか現代の大手企業のルーツが載っていて、今日につながります。大正時代の地図では、軍需工場があつたりして、軍事色が出てきます。後にゼロ戦を造ることになる工場も名古屋にできます。そして戦後の昭和30年代の地図を開くと、住宅地図だけに社名や氏名が載っていて、そこに小学校時代の同級生の名前を見つけることも……。そんな北見昌朗氏による講演です。この講演を聴けば、古地図を手にして名古屋の町を歩きたくなるでしょう。



時◎平成26年10月26日(日) 午後2時～3時30分(受付1時30分より)

所◎名古屋市中区役所 6階大会議室

公共交通機関でお越しください(地下鉄栄駅⑫番出入口より東へ50m 中区栄四丁目1番8号)

定員◎150名(当日先着順)

◎入場無料

講演◎名古屋の古地図の見方と楽しみ方

講師◎北見昌朗氏(歴史研究家・株北見式賃金研究所所長)



昭和34年生まれ。名古屋市中区在住。名古屋の旧町名を復活する有志の会を主宰。名古屋の古地図にこだわり、これまでに各種のモノを制作した。古地図でチャリティを行い義援金も寄付している。

江戸時代の名古屋城下中心部分

「宝暦12年改名護屋路見大図」
(愛知県図書館蔵)をもとに作成

